

# 新学習指導要領に則した社会科教育法（地理・歴史分野）の実践

法政大学キャリアデザイン学部兼任講師 本山 明

## 1. はじめに

2017年3月小中学校の学習指導要領が告示された。長年、東京の下町で中学校の社会科教師をしていた私には子どもたちから発せられた忘れられない言葉がある。テストに備えて単なる理解と暗記していた時だった。「教科書はつまらない。これ何の意味があるんですか」との問いだった。

今の時代が矛盾や課題や課題に満ちていることは子どもたちも日々感じ取っている。「何の意味があるんですか」という、私に投げかけられる子どもたちの言葉は、いまの時代の学びのテーマ性と学校の授業がかみ合っていないことを象徴的に表現している。高校受験という制約はありながらも、私自身、子どもたちが社会科の意味を感じとるように努力をしてきた。大学の社会科教育法の授業の中でも、いくつかの手作り授業を紹介している。その一つである「回転寿司の授業」を示すことにより、この授業が新学習指導要領でどのような位置付けになるのかを考えてみたい。

## 2. 実践

＝研究テーマ『生徒が意欲的に学習するための授業の工夫』＝

授業名

回転寿司の授業

地理的分野・●資源や産業の特色（日本の漁業）

公民的分野・●現代社会を生きる（豊かさを考える）

●生活と経済 ●かぎりある資源

### （1）研究テーマ設定の理由

- ・社会の授業はともすれば、知識を生徒に教え、暗記させることが多くなる。このことは知識をつける上では大切であるが、生徒が意欲的になるには、授業において工夫が必要に思われる。
- ・授業にたいして生徒が意欲的になるには、いくつかの要素があるのではないかと。授業内容が生徒の実感とつながっていること。（たとえば現代の課題や地球的課題は「なんのために学ぶのか」が明確であるため、積極的にとりくみやすい。）

- ・授業方法が生徒参加型であること、発信型であること、生徒の推理や想像の余地があること。
- ・また、授業の中で「友達と梯子をつなぎあつて上に登り、（まちがいつも大切にしながら）新しい発見をしていく」「友達の意見を聞き、知的刺激を受け、自分の思考を活性化していく」などの学びの共同性なども意欲をひきだすのではないかと。

### （2）今回の授業で多少ではあるが工夫した点

- ・生徒にとって身近な回転寿司を切り口にし、現在報道されているマグロの減少の問題につなげている。
- ・クイズという方式を使いながら、地球における食糧資源の保護という視点が深くなる設問を準備している。
- ・取材で得てきた、それぞれの職業や立場のコメントを写真つきで紹介しながら、生徒が考える資料としている。
- ・「持続可能な漁業のためにどうしたらよいか」というテーマで生徒が考え、共有しやすいようにしている。

### （3）指導計画とねらい・授業略案

#### ◆回転寿司の授業（前半）（1時間）

〈ねらい〉

私たちがたくさんの漁業資源を消費していることについて、回転寿司をてがかりに確認する。  
蓄養マグロを例にしてマグロが安く食べられる“しくみ”について知っていく。

【導入】

回転寿司体験を聞き授業にはいる。

【展開】

回転寿司クイズをおこなう。

- ・世界の漁獲状況は、くどの国々が多く魚をとっているのか」という問を手がかりにしていねいにみていく。
- ・マグロの価格が下がっていることの要因のひとつとして蓄養があることを確認する。
- ・また蓄養には、たくさん小魚が必要なことも知る。

- ・ラベルをよみとる作業から消費者として魚を選択できることにもふれる。

【まとめ】

NHK 地球データマップ

「魚が消えていく」(前半) 視聴

◆ 回転寿司の授業 (後半) (1 時間)

〈ねらい〉

いくつかの仕事や立場の方のコメントを参考にして「どうしたら持続可能な漁業をしていけるのか」「地球の食糧資源が守れるのか」を考え、クラス全体で共有する。

【導入】

銚子丸の副店長さんの話題からはいる。

【展開】

コメントと写真(取材で撮った顔のアップ)、ロールプレイを行う。

- ・消費者が魚にたいしてどのようなイメージを持っているのか、それが世界的な魚ブームに結びついていることを理解する。
- ・仕事や立場によって漁業資源にたいする思いが共通しているところ、違うところがあることを理解する。  
持続可能な漁業のために⇒ひとりひとりの意見を黒板にはりだす。
- ・いくつかの仕事・立場にわけ、そこで何ができるのかを考え記入する。

【まとめ】

NHK 地球データマップ

「魚が消えていく」(後半) 視聴

〈備考〉

- 事前学習や意欲づけとしてマグロの漁獲規制などの日本経済新聞の記事(06.11)の読み合わせをするとよい。
- 「どうしたら持続可能な漁業がつけられるのか」「地球の漁業資源を守るには」というテーマでレポートを課題として出すとよい。

(4) 評価

積極的に授業に参加できたか。〈関心・意欲〉・・・授業

自分なりの意見をその理由をつけながら構成できたか。〈思考・判断・表現〉・・・レポート・授業の間への答

新聞やコメントなどを資料として活用できたか。〈資料活用〉・・・レポート

漁業資源が減少しそれにたいして様々なとりくみは始まっていること理解できたか。

〈知識・理解〉・・・テスト

(5) 回転寿司のマグロはなぜ安い？

ここ数年、回転寿司にはいってみるとトロがとても安くなっていることにビックリする。なかには、生本マグロの大トロが2貫で250円のところもある。地域の寿司屋では、同じものが1貫500~600円する。以前からなぜ五倍もの価格の差があるのか、回転寿司の本マグロはなぜこれほど安いのかと疑問に思っていた。

世界自然保護基金(WWF ジャパン)のホームページを見ていると、マグロの乱獲についての資料があった。そこには、地中海沿岸・オーストラリア沿岸を中心に、本マグロの蓄養(小さなマグロをとってきて、小魚をエサにし、巨大ないけすの中で大きく育てること)が行なわれており、このため小さなマグロが乱獲されている問題がしるされていた。

その資料の中に、MSC 認証(海の環境や生態系を乱さないよう環境に配慮した漁場で捕獲したという認定ラベル)について紹介しているページがあった。この認証をはじめて日本でとった会社・団体は、亀和商店(和田一彦社長)と書いてある。なぜ、このような認証をとろうとしたのかを聞きに行こうと思いたった。現在の魚についての問題や、プロとしての思いを聞けるかもしれない。

亀和商店は、築地市場の中に事務所をかまえていた。社員は80名ほどという。和田社長は、まだ若い方であった。「世界中の魚は乱獲されており、このままいけば枯渇する魚も出てくる。魚をたくさん食べる日本や先進国は、この状況に対し責任を持たなくてはいけない。どうしたら持続可能な漁業ができるのか、消費者も含めて考える必要がある。亀和商店があついているアラスカのマスについてMSC 認証をとった。このような認証は欧米ではかなり広がってきている。日本にも広げていきたい。プロとして自信の持てる魚をあつかいたい。目先の相場だけを見て、もうかることだけを追求することは悲しいことだ。私の喜びは、みんなにほんとうにおいしい魚を食べてもらうことだ」と話してくれた。

築地市場鮪専門やま吉、WWF ジャパン、すし銚子丸にも取材に行った。感じたことは、マグロひとつをとっても、マグロ卸売商、環境保護団体、回転寿司屋それぞれの立場での意見があるということだ。消費者もいれて、それぞれのコメントを構成して台本をつくり、授業で子どもたちがロールプレイをしたらよいと思った。そのなかで持続可能な漁業について考えさせ

たい。また授業のはじめには、回転寿司やマグロについてのクイズをしたら、子どもたちの関心が高まるのではないかと構想を練った。参考までに、授業のときに使用した情報源のおもなものをあげておく。

※テレビ番組

NHK 教育テレビ 地球データマップ「魚が消えていく」

※書籍

NHK スペシャル『データマップ 63 億人の地図—経済の地図帳』アスコム

※新聞記事

朝日新聞 2001年4月20日夕刊「地中海はマグロブームにわく」／朝日新聞 2006年6月22日朝刊「マグロの道・蓄養技術」／日本経済新聞 2006年8月2日朝刊「マグロの高値余波じわり」／毎日新聞 2006年11月6日朝刊「闘論・地中海のマグロ規制」／東京新聞 2006年11月11日夕刊「トロやパエリアが環境破壊。WWF 海の乱獲警告」／各新聞 2006年11月27日「クロマグロ規制の記事」

※インターネット

“World Mapper (ワールド・マップ)”のページ(各国の統計数字、たとえば魚の輸入量がビジュアルに各国の地図面積としてあらわれる。／「無添くら寿司」のホームページ(回転寿司のネタや調味料などの原産地など情報開示にすぐれており、授業をつくるうえでのヒントになる)

## (6) 授業展開—資源問題を多様な視点から考える

「回転寿司の授業」は、2時間の予定で行なった。1時間目は回転寿司クイズをし、日本が大量の魚の消費国であること、蓄養マグロなどで、本マグロが安く食べられるしくみがつくられていることにふれておく。

2時間目は、いくつかの仕事や立場の方(WWF ジャパン・伊澤あらた氏、すし銚子丸・青木茂也店長、鮪専門やま吉・大見高司氏、亀和商店・和田一彦社長、小学6年生と中学2年生の親・村山美枝さん)のコメントをもとにして作成した台本で、ロールプレイ(それぞれの人になりかわって発言)を行なう(黒板にそれぞれの方の写真を貼り臨場感を出した)。マグロの問題についてもひとつの見方を押しつけるのではなく、資源問題をいろいろな視点から考えていくことが必要だと考え、このような方法をとった。

その後、黒板にテーマを貼り、(例えば、「持続可能な漁業のために、どうしたらよいか」)、〈私たち消費者〉  
〈漁業をしている人・水産関係の企業〉〈国・国際機関〉

〈マスコミ〉〈小売り・卸売り〉〈環境保護などの団体〉  
〈新しいプラン〉の項目に分けてスペースをつくった。子どもたちは、テーマについての考えを、項目に分けられたワークシートに書き込む。その中でグッドアイデアをひとつ付せん紙に書き、一人ひとりが黒板に貼る。付せん紙には氏名も書いてある。

私は、黒板に貼られた付せん紙を、項目ごとに読みあげる。読みあげられた子はニッとするし、さえているプランには、「oo君スゴイ」と子どもたちの中から声がかかる。こんなふうに、全員のプランを読みあげていく。「よくここまで考えられたね」などの私からのコメントを折り込みながらやっていく(時間があれば、子どもが自分のプランを黒板の前で読みあげるとよい)。

子どもたちが「持続可能な漁業のために、どうしたらよいのだろう」というテーマで考えてきたプランのいくつかを、以下にあげておく。

- ・漁獲制限をしっかりと守り、乱獲などを行なったり、蓄養などに使われるエサをとりすぎたりしない。漁ではほかの魚をとってしまったり、海底を荒したりしない漁の方法にする。(漁業をしている人に)
- ・「マグロの値段が高くなった」などの話だけを報道せず、どうすべきなのか、どのような状態なのかということも報道し、知らない人にどんどん知らせていく。(マスコミの人に)
- ・蓄養のときに育てたマグロを少しでもいいから逃す。(漁業をしている人に)
- ・乱獲・混獲などいけない方法でとっている魚は仕入れないようにする。パッケージにどんな方法で魚をとったのかを表示する。(小売りをしている人に)
- ・魚をとる量を制限する。またそのときには、漁業をしている人にきちんと補償金を出す。(国に)
- ・なるべくこれからまだ成長しそうな小さな魚を漁獲しないで、成長しきった大きな魚を漁獲したらよい。(漁業をしている人に)

## (7) 手づくり授業をつくろう

子どもたちの感性はやわらかい。気持ちでとらえ、そのまま意見が出せる。友だちの意見を聞き、知的刺激を受け、自分の思考が活性化してくる。このような経験を授業でもたせたい。学力テストにそなえた暗記学力や操作学力では生まれてこない力である。子どもたちの実感とつながっている切り口の授業を、教師が手づくりでつくること。このことが今ほど求められている時代はないだろう。

## 資料1

### 回転寿司クイズ

- 1 人間の祖先は野生の猿です。(A)く物を追いかけて捕まえようとするのが本能です。(A) いている物は美味しそうに見える。(大手回転ずし社長のことばより)

(A) に入ることばは何。

- 2 回転寿司で回っているネタが下に出ています。日本でとれるネタはどれ。

赤貝、タコ、サンマ、紋甲イカ、エビ、スルメイカ、サーモン、ヤリイカ、真アナゴ、びんちょう鮪、キハダマグロ、ズワイガニ、ウニ、メバチマグロ、エンガワ、

- 3 回転寿司を速く回すと ( B ) が早まり時間的には早く処分しなければならない。

B に入る言葉は何。

- 4 これは何。(写真は割愛)

- 5 1950 年の漁場も世界地図と 2000 年の漁場も世界地図を見てわかることは何か。(世界地図は割愛)

- 6 次の世界地図は何をあらわしているか。(世界地図は割愛)

- 7 次のネタの中で一番高いのは何ですか。

ウニ、生ガキ、マグロ、ケーキ、浅づけナス、サバ、イクラ、ハマチ

- 8 何の写真か。(写真は割愛)

- 9 8 のマグロを解体しているとたまに体から出てくるものはなにか。

- 10 8 のマグロの身を鮮やかな赤色にするために食べさせているものは何か。

ア トマトのミンチ  
イ 海老の頭の粉  
ウ 紅花の花の汁

- 11 8 のマグロ、1 k g 増やすのに ( ) kg の餌(イワシなどの魚、他)が必要か。

ア 15 kg  
イ 7 kg  
ウ 5 kg  
エ 3 kg

- 12 8 のマグロを育てると何パーセントがトロの部分になるのか。

ア 30%  
イ 45%  
ウ 60%  
エ 75%  
オ 90%

- 13 ラベルを読んでみよう。A の場合は ( ) 産と

表記される。(ラベルは割愛)

### 【回転寿司クイズの答え】

1 動、2 サンマ、3 乾燥、4 おひつ型しゃりロボット、5 漁場が広がっている(先進国が南の後進国を漁場にしている)、6 魚の輸入量、7 ウニ 8 (マグロ) の(畜養)、9 銃弾、10 イ、11 ア、12 オ、13 三崎港(外洋で漁獲しても〇〇港産と表記できる)

## 資料2

### クローズアップ 2016

中西部太平洋委 クロマグロ保護、温度差

毎日新聞 2016年8月30日 朝刊

日本や米国など10カ国・地域が、高級すしネタとして人気のクロマグロの資源管理を話し合う中西部太平洋マグロ類委員会(WCPFC)が29日、福岡市で開幕した。生後1年未満のクロマグロが減った場合に緊急の漁業規制を行うことなどを日本が提案、9月2日まで議論して着地点を探る。クロマグロの保護では、日米で回復目標に差があるなど課題は多く、長期的な資源管理の展望を打ち出せるかが鍵となる。太平洋のクロマグロの漁獲量は10か国、地域で1962年の15万トンから2015年には3万トンまで減少している。

## 資料3

### 地中海マグロブームにわく

赤身の多い天然ものが「全身トロ」に変わる。カルタヘナから日本に向かうマグロは5年で25倍になった。

朝日新聞 2001.4.20 朝刊

パン、パン、パン。ひげを蓄えた男が、絞り込まれた網の中にライフル銃を撃ち始めた。1秒ほどの間隔で、群れる本マグロの目のわきを正確に射抜く。海は瞬間に真っ赤に染まった。

地中海に面したスペイン・ムルシア州のカルタヘナ沖。動きを止めたマグロが、次々と2基のクレーンで船の甲板につり上げられていく。

甲板上では、電動ノコギリで頭部を落とし、約1分の針金を差し込んで中枢神経を抜く。重さを減らして運送費を節約するのと、鮮度を保つためだ。大きな魚体の大部分は、脂身の多い「トロ」だ。作業は手際よく進み、マイナス2度に設定された水槽の中に放り込まれた。

現地企業と合弁で、このいけすでマグロを育ててい

るのは日本の水産会社マルハ。かつお・まぐろ課長の中川冬樹さん（42）は「素早くしなければ、マグロの鮮度がおちる。ライフフルで撃つのは『マグロが苦しまずにすむ』と環境保護団体も理解してくれている」と話す。

カルタヘナは地中海に突き出た人口約 17 万人のまち。周辺の海岸線にそって、日本企業がかかわる 7 社の本マグロいけすがひしめく。ここで取れたマグロはほとんどが成田空港へ空輸され、日本人の胃袋にはいる。

マルハは 1995 年に現地企業と合弁会社を設立し、翌年から本マグロの養殖を手がけている。ほかに三井物産や東洋冷蔵（三菱系）も、この企業と合弁を組み養殖を事業化している。

カルタヘナでマグロの作業船に乗せてもらったのは今年の 3 月。ベージュ色の大きな岩肌が海に張り出し、前任地の宮城県石巻市で見た牡鹿半島の入り江に似ていた。

海岸線から約 200 ㍎離れて、いけす 4 基がアンカーで据え付けられている。だ円形で長さ 160 ㍎、幅 60 ㍎。1 基の中に約 300 ㍎のマグロが入る。平均 150 ㍎だと 2000 匹が入る。

この日、いけすから取り上げたマグロは 150 本。一番大きいので体長約 2・5 ㍎、体重 300 ㍎あった。

#### 資料 4

マグロの道 蓄養技術 競う産地 養殖も視野に  
朝日新聞 2006 年 6 月 22 日 夕刊

まだ暗い午前 7 時、オーストラリア南部ポートリンカーンの水産会社「ブラゾロフ」の漁船が、沖合 20 ㍎にあるいけすに着いた。船員の 1 人が船尾のクレーンを動かし、直径約 20 ㍎のいけすいっぱい網を広げた。

「ゴー（行け）！」

リック・レーマン船長（53）の指示で、別の船からダイバーが飛び込んだ。網に追い込んだ 1 ㍎弱のミナミマグロに、寄り添うように泳ぎながらエラに手をかけて抱き上げ、船上へ伸びるベルトコンベヤーに 1 匹ずつ乗せる。南半球は今が冬。約 16 度の水中で 2 時間、作業は続く。

船上で、マグロは脳天に直径 1 ㍎ほどの金属棒を打ち込まれ、血抜きされる。エラと内蔵が除かれ、口に細いロープが通されて甲板下の冷蔵室につるされる。2、3 分の工程の間、マグロは精いっぱいの抵抗をする。10 代から 30 歳過ぎと若い船員たちは、みんなすぐに血まみれになった。

箱詰めされたマグロは、陸路で 640 ㍎東のアデレードに運ばれる。空路シンガポール経由で成田に向かい、2 日後には店頭並ぶ。

「蓄養」と呼ばれる生産方法だ。10～20 ㍎の幼魚を捕らえ、2～3 倍に太らせて出荷する。

### 3. 新学習指導要領（2017 年 3 月告示）

（1）中学校社会科の目標を抜き出してみる。（下線は筆者）

◇中学校学習指導要領総則 第 2 節 社会

第 1 目標

社会的な見方考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野にたち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- （1）我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- （2）社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- （3）社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

◇中学校学習指導要領 社会編 第 2 各分野の目標及び内容

〔地理的分野〕

1 目標

社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- （1）我が国の国土及び世界の諸地域に関して、地域の諸事象や地域的特色を理解するとともに、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を効果的に

調べまとめる技能を身に付けるようにする。

- (2) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 日本や世界の地域に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深める。

〔歴史的分野〕

#### 1 目標

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを旨とする。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとするこの大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

#### (2) 注目されるSDGs（下線は筆者）

◇中学校学習指導要領解説 社会編

(イ) 取り上げる地球的課題については、地域間の共通性に気付き、我が国の国土の認識を深め、持続可能な社会づくりを考える上で効果的であるという観点から設定すること。また、州ごとに異なるものとなるようにすること。

この中項目の構成、主なねらいや着目する視点などについては次のとおりである。（中略）

この中項目で身に付けたい「知識」に関わる事項として、まず、ア（ア）「世界各地で顕在化している地球的課題」は、それが見られる地域の地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることを理解すること」が挙げられる。

このうち、地球的課題については、グローバル化する国際社会において、人類全体で取り組まなければならない課題、例えば、持続可能な開発目標（SDGs）などに示された課題のうちから、生徒が地理的な事象として捉えやすい地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などに関わる課題を取り上げることを意味している。

地域的特色の影響を受けて、現れ方が異なることについては、世界各地に見られる地球的課題は地球上の各地で現れる普遍的な課題ではあるが、各地域の地域的特色を反映させてその要因や影響、対処の仕方などが異なっていることを意味している。

#### 4 新学習指導要領と「回転寿司の授業」

##### (1) SDGs と「回転寿司の授業」

SDGs は国連によって「持続可能な社会・世界」をつくるための目標である。17項目からなっており2030年までの達成をかかげている。「回転寿司の授業」は主に目標14の「持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全し持続可能な形で利用する」に当たる。

SDGs は中学校学習指導要領解説で掲げられている地球環境問題や資源・エネルギー問題、人口・食料問題、居住・都市問題などのほかにも貧困、飢餓、保健、教育、ジェンダー、水・衛生、エネルギー、経済と雇用、不平等、陸上資源、平和、グローバルパートナーシップが目標として掲げられており、その実態、現実と合わせ授業化すれば子どもの関心を引き起こすことになる。

教育と、あるべき社会像・世界像は、本来的にはともに語られるべきものだと思う。日本の教育の中にはそれが欠けていると思われる。SDGsはそのヒントになるだろう。

## (2) 新学習指導要領による「見方・考え方」と「多面的・多角的に考察」の強調

今回の学習指導要領で多く出てくるキーワードは「見方・考え方」と「多面的・多角的に考察」である。この二つのキーワードは現学習指導要領でも使用されている。「見方・考え方」は全教科に共通する深い学びに至る筋道としての用語になっている。「多面的・多角的に考察」は様々な角度の切り口、異なった見方・考え方、意見、主張、立場でと読み取ることができる。

「回転寿司の授業」では、築地市場のマグロ専門店、卸売商、環境保護 NGO、回転寿司屋さん、消費者を取材し、ロールプレイの台本を作成した。取材を通じ漁業新聞の記者さんとも知り合いになった。漁業関係者はそれぞれ漁業資源の枯渇の問題に直面しており強い危機感を語っていた。出会った方の多くは中小業者であり、大きな漁業会社の要求で効果的な漁業制限をしない行政への批判もあった。海の流れ、海水の温度変化で魚がとれなくなるという地球環境の変化に触れた発言もあった。持続可能な漁業の問題は他の SDGs の問題と関連し合っている。

ところで学習指導要領で、批判という言葉を使わないのはなぜだろう。批判とは自分の意見をもって、現状をただすことだと思う。子どもたちの意見表明でもある。主体的になるには批判的な思考の育成、社会的な提言、社会参画が必要ではないか。